

第1号様式

令和7年度 第2回 保土ヶ谷区障害者地域自立支援協議会 担当国会議 議事録													
日時	令和7年11月10日(月) 14:00 ~ 16:30												
開催場所	保土ヶ谷区役所地下会議室												
出席者	<p><事務局>石田(夢21)、小堀・明田川・井上(保土ヶ谷区役所高齢・障害支援課)、平良(保土ヶ谷区生活支援センター)、島田(ほどがや希望の家)、戸村(恵和めぐみ)、村瀬(保土ヶ谷区社協)、田中(わおん相談支援事業所)、田村・遠藤・矢板・福田(保土ヶ谷区基幹)</p> <p><各部会長(担当者)></p> <p>金井(ゆめわーく:自主製品販売)、竹内(しぐれ会:当事者活動)、加藤(ときわ虹の会:当事者活動)、平良(生活支援センター:精神net)、矢田(生活支援センター:まちで暮らす)、山下(ゆめのね:こども)、中戸川(たちばな会:防災)、佐藤(希望の家:地域支えあい研修)、相原(恵和相談室:相談)、力石(トラック:ほっとらんど)、野口(活動ホームゆめ:お仕事フェア)、佐藤(希望の家)</p> <p><拠点事業所></p> <p>鈴木(すみれ園)、武田(保土ヶ谷介護事務所)、野口(活動ホームゆめ)、居木(活動ホームゆめ(計画))、樋口(のぼら園)、若山・福田(たちほどがや)、田中(わおん相談支援事業所)、相原(恵和相談室)</p>												
欠席者	相村(光風会相談室)、佐野(恵和青年寮)、早坂(希望の家)、増元(保土ヶ谷区役所こども家庭支援課)												
開催形態	公開(傍聴人: 名) ・ 非公開 記録:												
議題	<p>司会進行:保土ヶ谷区役所 議事録:わおん</p> <p>第1回担当国会議と第2回全体会について振り返り(基幹 遠藤より)</p> <p>⇒各議事録説明</p> <p>/14:00-14:05</p> <p>2. 各部会長(担当者)より中間報告/14:05-14:40 ※各部会3分</p> <p>対:主に「市域で共有・検討したい課題」や「シェアしたい取り組み」について</p> <p>ピックアップし報告</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>中間報告</td> </tr> <tr> <td>精神net</td> <td>共通課題を模索していたが、良かったことを共有する機会を設けて良かった。Googleフォームでアンケートで実施。AIでまとめてもらった。</td> </tr> <tr> <td>ほっとらんど</td> <td>西谷地区センターで継続中。開店日は増えたが、利用者は横ばい。もっと知って欲しい。食器の寄付も募集中。</td> </tr> <tr> <td>自主製品</td> <td>前年同様月1回実地。今年度よりビジネスパークが増えている。より周知をして売り上げ目指したい。</td> </tr> <tr> <td>当事者</td> <td>8月に研修会を行って、県外参加者も。防災部会とコラボで災害時の対応を考えた。初夢まつりに参加予定。</td> </tr> <tr> <td>防災</td> <td>被災地防災センター発足し、その立ち上げ訓練をしている。現在は保土ヶ谷のみであるが、各区にあるといいことを発信。家族会も働きかけてくれている。いざというボランティア確保は考えるべき課題。能登の現地の方とオンラインでつなぎ状況など共有を図る予定。</td> </tr> </table>		中間報告	精神net	共通課題を模索していたが、良かったことを共有する機会を設けて良かった。Googleフォームでアンケートで実施。AIでまとめてもらった。	ほっとらんど	西谷地区センターで継続中。開店日は増えたが、利用者は横ばい。もっと知って欲しい。食器の寄付も募集中。	自主製品	前年同様月1回実地。今年度よりビジネスパークが増えている。より周知をして売り上げ目指したい。	当事者	8月に研修会を行って、県外参加者も。防災部会とコラボで災害時の対応を考えた。初夢まつりに参加予定。	防災	被災地防災センター発足し、その立ち上げ訓練をしている。現在は保土ヶ谷のみであるが、各区にあるといいことを発信。家族会も働きかけてくれている。いざというボランティア確保は考えるべき課題。能登の現地の方とオンラインでつなぎ状況など共有を図る予定。
	中間報告												
精神net	共通課題を模索していたが、良かったことを共有する機会を設けて良かった。Googleフォームでアンケートで実施。AIでまとめてもらった。												
ほっとらんど	西谷地区センターで継続中。開店日は増えたが、利用者は横ばい。もっと知って欲しい。食器の寄付も募集中。												
自主製品	前年同様月1回実地。今年度よりビジネスパークが増えている。より周知をして売り上げ目指したい。												
当事者	8月に研修会を行って、県外参加者も。防災部会とコラボで災害時の対応を考えた。初夢まつりに参加予定。												
防災	被災地防災センター発足し、その立ち上げ訓練をしている。現在は保土ヶ谷のみであるが、各区にあるといいことを発信。家族会も働きかけてくれている。いざというボランティア確保は考えるべき課題。能登の現地の方とオンラインでつなぎ状況など共有を図る予定。												

まちで暮らす	行動障害のある方・児童発達ケースの課題について協議をしている。他領域と話せた機会として貴重だった。
相談支援	相談員の同士のネットワークづくり（協議会自体への参加に繋がっている）やスキルアップ（GSV）を取り組んでいる。地域改題については課題感。「共同体制」も開始しており、今後も発信出来たら。
こども	6月交流会（放デイや居場所等を載せた区版の冊子作成中）12月に事例検討会予定。引き続き顔が見える関係を。
支えあい	11月実施。利用者の家族の高齢化の課題が挙がり。次回はケアプラザの方に依頼し協議中。
お仕事	区内の11事業所でおしごとフェアを3/8で予定。現在チラシの目途ができてきた。完成次第周知。チラシを置いてもいい事業所募集中。

3. 意見交換 / 14:40—15:05

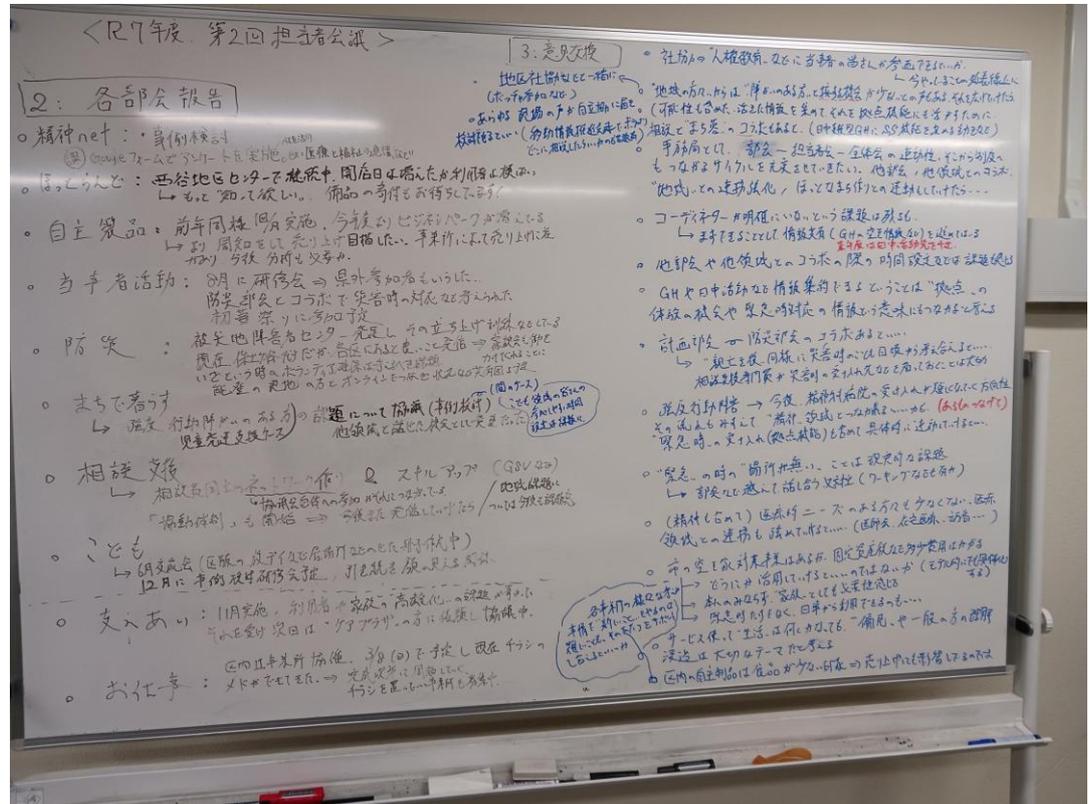
※：コラボの有無に問わず、**具体的に動けそうなこと**についてのディスカッションを。

- ・「地域生活拠点等の機能に関連する各種加算について」について参照
- ・事務局として部会・担当者・全体会の連動性、そこから制度へつながるサイクルを充実させていきたい。他部会、他領域とのコラボ、地域との連携強化、ほっとなまちづくりとの連動もしていけたら
- ・コーディネーターが明確にいないという課題は残るが、まずできることから情報共有（GHの空き情報等）を進めている
- ・他部会や他領域とのコラボの際の時間設定などは課題と捉える。
- ・GHや日中活動など情報提供できるということは「拠点」の体験の機会や緊急時対応の情報という意味にもつながると考える
- ・相談支援部会と防災部会のコラボがあるといい。親亡き後同様に災害時のことも日頃から考え合えると。相談支援専門員が災害時の受け入れ先等をしておくのことは大切
- ・強度行動障害の方、今後精神科病院の受け入れが難しくなっていく方向性か。その流れも見据えて精神の領域とつながれるといい。緊急時の受け入れ（拠点機能）も含めて具体的に連動していけるといい
- ・「緊急」の時の「場所がない」ことは現実的な課題
⇒部会を超えて話し合う必要性（ワーキングなども有効）
- ・精神も含めて医療的ニーズのある方も少なくない医療領域との連携も強めていけるといい（医師会、在宅医療、訪問看護等）
- ・市の空き家対策事業はあるが、固定資産税など多少費用はかかる
⇒どうにか活用していけるといいのではないかと（モデル的にでも実現化）
⇒本人のみならず、家族としても必要性を感じる
⇒緊急時だけではなく、日常から利用できるのもいい
- ・サービス利用して生活は何とかなっても「偏見」や一般の方の理解浸透は大切なテーマだと考える
- ・区内の自主製品は食品が少ない印象⇒売り上げとしても影響しているのでは
- ・社協の人権教育などに当事者の皆さんから参画できてもいいかもしれない
⇒今やっていることの延長戦でもある
- ・地域の方々と話をしていると「障害のある方」と接する機会が少ないと感じる発言を聞く機会がある。事業所メンバー等が既存のプログラムや行事への参加時に地域住

民ともっと直接接する機会が増えると良いのではないかと感じる。

それを拓げていけたら（地区社協なども一緒にポッチャ参加等）。あらゆる現場の声が自立協に届くといい

- ・相談支援部会とまちくらのコラボがあると（日中支援型 GH に SS 機能強める動き等）
- ・各事業所間の様々な事情で新しいことをやるのは難しいことも。それをサポートし合えるといいのではないか。



4. グループワーク / 15:05—16:05

テーマ: 「地域連携」に対する意見・具体的なアイデア出し

※グループは「部会長グループ」と「拠点事業所グループ」に分かれます。

※: 拠点整備計画に反映されることも想定し、具体的に動けそうなことのアイディアを出しあう。

⇒グループワークの記録参照

おもちゃ文庫

車いす乗、たま送迎車乗る体験

店の体験 **施設開放**

笹山団地の自治会長「見守り会」

民生委員との顔の見える関係づくり
等

G/Hの**地域連携会議の具体例**

不登校の子どもを支える資源不足

販売する機会を重視している **通学支援**

架空事例を用いて、**民生委員等**に
研修を行う。

家族会として連携のしづらさを感じる。
家族会は 未だ「ハードルを感じる。

災害時の連携のあり方—未確立

~~情報・データベース~~ **必要**と認識
地道な活動が大事だなと思

緊急時の居場所

家族の避難場所

インフォーマル事業

=目的外使用の指摘

その分野の
**生活の
見直し**

注意

当事者、家族のぬがれ ← ニーズ

重要性大きいと感じる

ボランティア育成

社協との協力
今あるモノを活用
(組織)

会う機会 = **精神**

20代の方の**集う機会、場**少ない

相談員からすると、訪問関係者の
持っている情報は多い

「ほんとは」とは 精神分野の方との
関わり、すすめられる。

①自立支援協議会を知ってもらう必要性
感じている。

「しくみ会」リタイヤしている方が

中心。若い方とのコミュニケーション

悩みある。

分野、母体を越えて、つながり

を作る必要性を感じた。

周知の共通課題 **誰に
伝えたいか**

移動情報 → 移動支援、ガイドボランティア
だけの限界はある。

5. グループワークの共有 /16:05-16:20

★ここで共有した取り組みについては各部会（または事業所）に持ち帰り、次年度の部会計画や拠点整備計画、事業計画へ落とし込むことを意識できると、PDCAサイクルをうまく回すポイントとなります！

・「部会長グループ」

⇒共通課題は誰に伝えたいかを明確にすること、移動支援の資源の少なさの課題（ボランティアだけでは難しい）ため、要望ができるといい

⇒インフォーマル事業のやりづらさを共有

⇒緊急時の協力体制や場が必要である

・「拠点登録事業所グループ」

⇒拠点の届け出を内容を確認、実際は算定できていない

⇒他施設の見学をしたい

⇒拠点事業所としてできることやできないことを提案・周知

⇒各部会でフィードバックをする体制づくり

⇒現場職員への周知や教育

6. 参加者よりインフォメーション等 /16:20-16:30

・区制100周年について/明田川

⇒普通に地域で生活していることを知ってもらい、残していくことを目的。現在は座談会やインタビューを予定。コンセプトは今を知る、そしてそれを残していく。低予算でやっているの、カメラ等、スポットで協力できる方、募集中。

・一斉アクションについて/石田・遠藤

⇒資料「障害者権利条約推進週間 2026 保土ヶ谷区内障害福祉一斉アクション参加事業者募集の呼びかけ」に基づき説明

・拠点事業所のヒアリングに伴う訪問について/田村

⇒資料「拠点届出事業所への訪問について」に基づき説明。

・12月10日（水） 自立協・3機関合同会議の出席確認/遠藤

自立協・3機関合同会議：令和7年12月10日（水）9:30~11:30

場所：保土ヶ谷区役所 201 会議室

次回担当者会議：令和8年3月3日（火）14:00~16:30

場所：保土ヶ谷区役所地下会議室